No. 13
建設防災ボランティアニュース

第１３号の主な内容（目次）

１　頁　：「河川愛護月間」、「道の日」行事
２～４頁　：川を歩こう
３～６頁　：道路施設点検
７　頁　：道路施設点検
〃　：新潟豪雨における砂防ボランティア活動
８　頁　：小森氏寄稿文

7月は河川愛護月間、8月は道の日開催

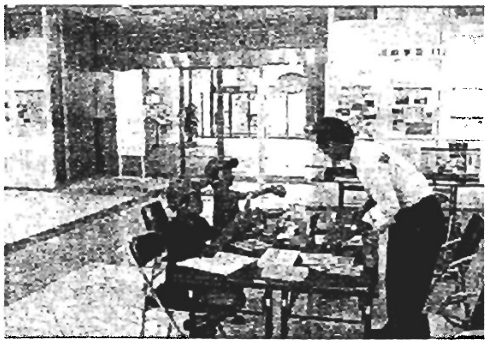
「川のパネル展」 河川行事担当役員　二宮克弘

７月の河川愛護月間関連行事の１つ「川のパネル展」が、７月21日（水）～30日（金）までのの８日間都議会議事堂１階の都政ギャラリーで開催されました。

会場風景

河川愛護月間は、建設省（現国土交通省）が昭和４９年に国民の生活環境がより一層、豊かで住みよいものになるように制定したものです。展示された内容は、都民からの応募による「フォトコンテスト」、川での行事、川の生き物、東京都の河川事業などが紹介されました。

また、小さい子供を対象に、川のあそび、川のはたらき、川の生き物などを紹介した「夏休み川の情報室」コーナーも同時に開催されました。



小学生と遊ぶ協会員

この開催期間中、午前、午後２交代、２名ペアーで延べ３２名の協会員が豊富な経験を生かして、懇切丁寧に延べ約１５００人の来場者に説明要員として活躍。

今年の展示会場は初めて都政ギャラリーで開催されましたが、レイアウト、展示方法、スタッフの手荷物を置く事務局控室の設置ができないなどいろいろと制約がありましたので例年どおり第二庁舎１階フロアーの“催物コーナー”の方が良かったという声もありました。

平成１６年度「道の日」行事に参加して

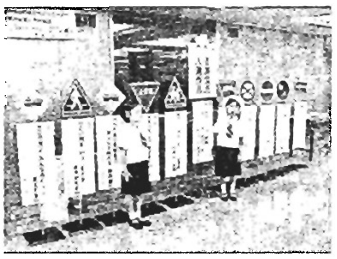
道路行事担当役員　雑賀　徹

今年の「道の日」行事は８月９日から１１日の三日間、例年同様に都民ホールや新宿駅西口広場などで行われました。

１０日には都民ホールで道路標語入選者と道路功労者の表彰式が行われました。

入選者に表彰状を手渡す岩永建設局長

受賞者の皆さんは大変緊張した様子で建設局長から賞状を受けておりましたが、受賞後インタビューに答える道路標語入選の小学生の素振りは大変微笑ましく、壇上の建設局幹部も思わずニッコリでした。



さて、ここでの会員の役割は受賞者を標語やパネルが展示してある新宿駅西口広場へ案内することで、６名の会員が待機しましたが昼食時間のためか、あるいは皆様あまり興味がないのか数組が向かっただけでした。

そのパネル展示場では３日間６組１２名の会員が半日交代で来場者へのクイズ回答のアシスト、パネルの説明、パンフレットの配布などを行いました。

来場者の中にはパネルの内容を詳細に聞かれる方もおられましたが、大半の方はクイズの答え探しに夢中で、問題以外は通過でしたが、それでも多少はPRになるのでしょう。何はともあれ、お手伝いされた皆さん暑い中をご苦労さまでした。

川を歩こう（旧中川コース）に参加して

佐藤　肇

「河川愛護月間」行事として、今年度より江東治水事務所が単独で主催する「川を歩こう（旧中川コース）」が７月３日に行われた。

事務所に所属班がないため、当ボランティア協会から当所に在籍経験のある４名（後藤、笹村、小林（健）佐藤）が参加した。

当日は、大型台風17号の北上を目前にしながら、少々の暑さにもかかわらず、最高の散策日和だった。

コースは集合場所の地下鉄東大島駅前広場から往路は左岸、復路は右岸を歩いた。全行程約５キロであった。

ふれあいボート教室のボートを横目に散策する参加者

参加者は都民75名、都・区の職員29名及び当協会員で、それぞれ３班に分かれて行動した。コースの途中でパネルでの事業概要、ボート教室や灯篭流しの説明があり、また、川辺にいる魚、鳥、植物の状態から「キレイ」になった水の変化に納得した。水面に浮かぶボート漕ぎの掛け声に見とれ、暑さで少々バテ気味の中、亀戸中央公園の樹木の下での休憩でホット一息をついた。最後は風の広場に保存されている旧小松川閘門や荒川ロックゲート等旧中川の歴史を確認し12時解散

参加者の満足げな様子からこの行事の成功が伺えた。

境川クリーン作戦２００４

南東建班　佐藤　俊

７月２５日（日）、主催「NPO境川緑のルネッサンス」（後援：南東建及び町田市役所）による今年で３回目の境川の清掃作業が、一般市民約１００名、行政側２０名、当協会員２名（佐藤貞一、佐藤俊）の参加で行われた。場所は、町田市鶴間の鶴瀬橋～鶴間橋間約２Km。

小学生の子供と親が一緒になって河川を清掃することは河川の愛護月間行事としては大変好ましいことであると思う。

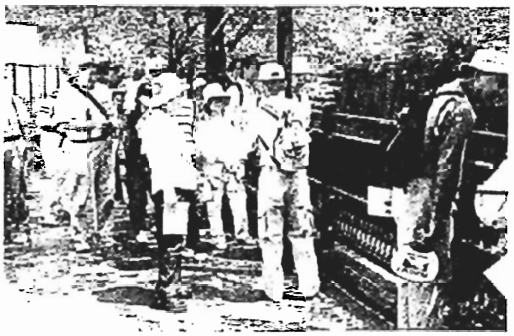
近年、境川の水質が流域下水道整備の進捗とともに、大変綺麗になった。小魚が群れて泳ぎ廻る光景を目にして親子共々歓声をあげていたのが、印象深かった。

なお、今年は特別参加として昭和女子大生が７名ボランティア活動として参加し明るい雰囲気となった。

川を歩こう（石神井川コース）

四建・六建合同班　　田島　照

７月４日（日）、朝１０時より、総勢６１名(都民３９名、事務方８名、ボランティア４名)を３班に分け、板橋区役所を出発し、旧中山道の町並みを見学しながら板橋へ着く。此処より石神井川沿いに管理道路を散策し、王子の音無親水公園までの行程です。



旧河川敷の木陰で協会員から説明を聞く参加者達

旧河川敷の公園個所では、整備後の新川と旧川を比較したり、護岸から水面までの深さを実感したり、背後地の地盤の高さや、護岸との関係を理解して戴き、又、板橋宿の話、金沢橋付近の歴史（加賀藩の下屋敷から明治政府の軍需工場と変わる）や紅葉寺付近の古い話等を説明し、木陰を歩きながら音無橋の親水公園で終了しました。

当日は、天候が良く、参加された方々は、時間的にも順調に進められ、川について良く理解なされたと思います。

「程久保川リバーウォッチング」

南西建班　　堀内康彦

多摩川流域懇談会浅川部会が主催する，恒例の夏のリバーウォッチングが７月１０日（土）に開催された。

一般の参加者４１名、案内・説明等のスタッフは、南西建、河川部、日野市の職員など１３名（当協会は石島、堀内の２名）の総勢５４名だった。

落川橋の上から程久保川を見下ろす参加者達

当日は、多摩川合流点から約 3km の上流（多摩動物公園駅付近）に向けての行程である。

薄曇りの天気のなか、合流点における「ワンド」の説明に始まり、落差工・用水・植生・旧河川敷などの、質問に応答しながら、高幡不動尊の休憩地へと歩を進めた。

この区間は，改修済で、河道内は水草などが茂っており、歩行中に３羽の「カワセミ」と出会いひどく感激した。

川を歩こう（多摩川コース）西建班　佐藤　肇

７月４日（日）、玉川水神社～白丸ダム（魚道見学）～数馬峡橋間の沿川遊歩道約３キロのコースで実施された。

参加者は都民４５名、奥多摩観光協会のガイド(名人達人)１０名、裏方２１名（内当協会員３名）の総勢７６名。９時４５分、鳩ノ巣駅から多摩川上流に向って出発した。

白丸ダム魚道付近での参加者達

途中、名人達人の多摩川の歴史や魚、植物等の話を聞き、ゆっくりと歩きながら清流を眺め、川岸の山百合等の山野草の可憐さには参加者から歓声が上がっていた。整備された遊歩道を進み、白丸ダムでは一段と急な階段を上がり魚道管理棟に到着。ここでは魚道の説明を受け、ダムにより分断された、長さ 331m、勾配 10%の魚道を見学。最後は数馬峡橋にて、12 時解散。都市部からの多くの参加者達は満足げに最寄の白丸駅への帰途に着いた。

我々（小山（弘）、池野、佐藤）も西建職員の補助として参加し案内役を無事に果たせた事にホットしている。

川を歩こう（環七地下の巨大トンネル）

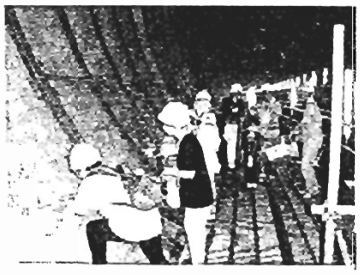
（三建班に参加して）　荒木　清

７月２５日日曜日、河川愛護月間イベントとして、三建主催の都民参加事業「環七巨大トンネルを歩こう‘０４」が妙正寺川地下調節池工事現場で行われました。

当日は、４７０名（当初想定２００名）の多数の都民の参加があり、普段接することのできない巨大土木施設への関心の高さを実感いたしました。

三建の要請を受け、中田リーダー他１２名の防災ボランティアが午前８時工事基地に集合し、清水工事第二課長・佐藤補佐の指揮のもと、受付係、立坑下部誘導係、トンネル内イベント係、地上イベント案内係、地上イベント係に分かれお手伝いをいたしました。

イベントは、受付を済ませた後、立坑をエレベーターで下降し、２ｋｍほど完成している地下トンネルをトロッコで進み、切羽・シールドマシン「もぐちゃん」など見学して徒歩でもどり、エレベーターで地上へ。４７０名を２０班に分け、タイムスケジールに従って順序よく進行する。想定した倍の見学者のため、昼食もそこそこに頑張った楽しいイベントでした。



地下河川に記念の落書きをする見学者達

川を歩こう（隅田川コース）１建班新井敏男

越中島付近のテラスに上陸した見学者達

川の日（７月７日）に実施された「川を歩こう」（隅田川）に１建、５建の協会員４名が参加した。真夏日の猛暑と闘いながら、６８名の参加者も元気に行程を楽しんだと思います。９時半水辺ラインで両国を出発し隅田川を下り、レインボーブリッジでUターン、越中島で下船、その間、参加者は沿川のスーパー堤防、再開発された市街地等の景観を堪能しておりました。その後、大川端、明石地区の整備された堤防を３班に分かれ、担当者の説明を聞きながら約２キロを歩いた。治水所長以下職員の努力により、イベントも成功裏に終了し、河川に対する都民の認識も高まったのではないかと思う。我々も道案内、参加者からの質問に答えるなど、無事に任務を果たせたと思っています。

野川のちびっ子先生あつまれ！～小学生による「野川の通信簿」（北南建班　三沢英夫）

７月の『河川愛護月間』に北南建では、７月７日（午前中）、昨年に引き続き「野川流域連絡会」としての表記行事を主催し、当協会からも４名が参加しました。

主催者側の説明を聞く小学生達

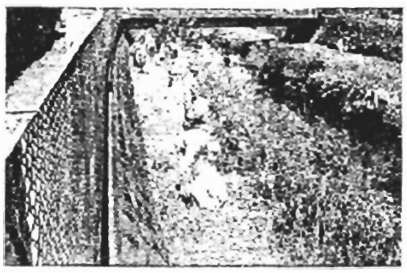
この催しの趣旨は、地元の小学校、市民団体、地元住民との連携により行事を実施し、流域における協力関係を深めることです。当日は気温 35℃の大変な猛暑の中、地元小金井市立南小学校の生徒（６年生、３クラス 83 名）に、やまべ橋～小金井新橋付近の水質、水生生物、鳥類、植物等を各々30 分程度かけ観察してもらい、それについての感想を「野川の通信簿」につけてもらった。

また、当日の様子は、早速「川のパネル展」のビデオで紹介されました。今年の野川は、空梅雨と猛暑続きで、観察個所では流水が殆ど見あたらず、予定した河川流量等の測定が不可能でしたが、参加した小学生や地元住民等には、積極的に川とのふれあいを体験してもらい、河川に対する愛護意識を高めて頂くための支援が出来たと思います。

わくわく川清掃＆川あそび

北北建班　　中山　功

例年７月に行われる河川愛護月間関連事業の一環として、本年も三連休の谷間の７月 18 日（日）に、北多摩北部建設事務所管内の黒目川、落合川に於いて、わくわく川清掃&川あそび～黒目川・落合川～が開催されました。



黒目川神山大橋下流部清掃風景

この催しは、地元東久留米市の環境団体が主体となって運営しているものですが、近年、東京都で進めている住民との協働による地域に親しめる川つくりを推進するものとして東京都に於いても東久留米市とともに積極的に参画しており、例年、地元の小中学生を中心に 300～400 人が参加する一大イベントとして、今年で１１回目の開催となっております。

内容としては、落合川の不動橋広場に於いて前日の夜行われる前夜祭(映画の夕べ等)、当日午前中の黒目川、落合川の川清掃、正午からの東久留米市長、北多摩北部建設事務所長による挨拶、これに続くトン汁等による昼食、和太鼓演奏等のアトラクションの後、落合川を堰き止めての魚捕り、ゴムボート遊び等で川を身近に感じ、川を大切にし、川に親しめるようなイベントです。

落合川イベント会場にての当協会員集合写真

わが建設防災ボランティア北多摩北部建設事務所チームも、北多摩北部建設事務所の要請を受け、行事の趣旨に賛同し、武田チームリーダ-他６名（荒木、岩田、金子、花田、根本、中山）が参加し、北多摩北部建設事務所 14 名（菊地副所長、野村工事第二課長、管理課）河川部 4 名（島津改修係長他）、と共に黒目川の神山大橋上下流部の河川清掃を行いました。

今年は、連日続く猛暑のなか、当日も 37 度を超える大変厳しい中での川清掃となりましたが、地元の小中学生も参加してのこの催しが、住民協働であり、地域に密着した親しめる川つくりが確実に根付いて行くものと確信いたしました。

最後に、事前の河川の草刈や、清掃用具の用意、ごみ処分の手配、落合川の堰上げ等々尽力して頂いた北多摩北部建設事務所の皆様有難う御座いました、また建設防災ボランティアの皆様も大変ご苦労さまでした。

護岸づくりと楽しい思い出

七建班　　村松栄治

７月３１日(土)台風１０号の接近で天気が心配でしたが、猛暑の中、七建主催の河川フェアー“野川の護岸づくりと魚とり”が予定どおり９時から始まった。

護岸づくりを背景にスナップ写真を撮る七建班

参加者は幼稚園児から中高年まで総員１００人ぐらい集まった。森田副所長の挨拶と主旨説明があり、参加者の内世田谷区の環境保護団体、当協会員（倭文、草野、笹村、村松の４名）及び七建職員、施工業者の各位が紹介された。

作業方法、注意事項等の説明が職員からされた後、親子一組づつが角材を運び、木工沈床に取り掛かった。角材をボルトで締め三組の木工沈床が完成した。引続き、詰石を天端からセットされたシュートに参加者全員が石を運び、沈床内に投入された。

最初のうちは何が出来るのかが解らない様子であったが、石が敷詰められ護岸の形になると納得の笑顔が見られた。

続いて、魚とりが始まった。川に入るのははじめてなのだろうか、足が止る子が何人か見られたが、捕獲が始まったら皆、夢中になって魚を追いかけていた。腕や足に蚊に刺された跡がいくつも見られたが、ひたすら楽しんでいる様子であった。水生動物をはじめ、“くちぼそ”“フナ”“こい”“ウグイ”“ハヤ”“アユ”等が沢山獲れた。なかでも、大きなワタリガニが一匹とれ、説明を聴いて皆驚いた。いかに川に自然が戻り、水質が良くなったか、と参加者は皆喜んでいた。

何年、何十年後、参加した子供たちが野川を見て、私達が造った護岸だよ、魚も獲ったよと話し、・・・小鮒釣りしかの川・・・♪♪と歌ってくれる楽しい思い出の川になって欲しいと願った。

今まで種々のイベントを実施してきたが今年度かぎりで七建最後の河川フェアーは終わった。

一建の道路点検　　一建班　板倉　治夫

一建班の道路施設一斉点検は、７月８日千代田区内の中央官ガ第２５５号、同第２５７号、特４１２号（六本木通り）計2.1kmの都道について防災ボランテイアが担当し、会員７人の全員が参加して実施しました。当日は、梅雨明けを思わせる猛暑となり、また周辺は、国会、総理大臣官邸、各省庁など国の要所が立ち並ぶ官庁街で、警備が非常に厳しく、職務質問を何回も受けながら、緊張の中で点検作業を行いました。作業は、２班に分かれ、両側の歩道をくまなく点検し、往年の経験と知識を十分に発揮しました。点検の結果は、地域の性格上、不法な占用物件や路上放置物は少なく、道路の整備状況も良好ですが、くまなく歩いて点検してみると、歩道の凹凸、誘導ブロックのガタツキなど問題の箇所も多く発見されました。特に危険が予想されるものについては、即刻担当工区に連絡し、対応方をお願いしました。

二建の道路点検　　山口　岩男　　林　泰三

二建の道路施設点検は、6月29日の事前説明会の後、本番を7月23日（金）、次の２路線で行いました。

① 特例都道４１５号線・高輪麻布線
東町小学校前歩道橋～　国道１５号線交差点手前
点検距離：約１．５ｋｍ　、点検者数：当協会員４名

② 特例都道４１６号線・古川橋二子玉川線（明治通り）
古川橋交差点～　天現寺橋交差点港区側
点検距離：　約１．２ｋｍ　、点検者数：　４名

次に、徒歩点検の結果について報告いたします。

① 特例都道４１５号線については，全体として緊急に処置すべき箇所はなかったが、街きょ工ブロックの破損１箇所は、できるだけ早く処理してもらいたい。
街路樹の管理不備が目立つ、特に全体として支柱控え木の老朽化対策が必要と思われる。
その他前回点検箇所の未処理（横断歩道段差解消・グレーチング蓋のガタツキ・点字ブロックなし及び段差解消）があった。オートバイ等不法駐車が多く見られた。車道舗装では、交差点部に（剥がれ）があった。

② 特例都道４１６号線については、全体として緊急に処置すべき箇所はなかった。
車道舗装では、交差点手前の部分で輪ダチぼれがあった。歩道幅員が広い箇所にスクーターや自転車などの不法駐輪が多く見られた。ガードパイプのボルト欠落が１箇所あった。街路樹の管理不備が目立ち、高木（イチョウ）の枝が繁茂しており建築限界をおかしている箇所があった。

点検した日は、非常に暑く大汗をかきながら調査して二建の会議室で纏めをしました。二建からジュースやお菓子をいただきましてありがとうございました。点検では８人いましたが、二建では５人で資料作成し、提出できるものはその場で二建事務局に提出いたしました。

三建の道路点検　　三建班　中田　勝司

三建の点検は、真夏日が続く７月７日午後２時から、五日市街道（環八～春日神社前交差点）で行った。参加した当協会員は、飯山、井出、雑賀、中田の４人。環八との交差点に集合し、三建の職員から点検趣旨などの話を伺った後、職員と共に、街道の北側と南側の２班に分かれて点検を開始した。この区間は歩道幅が狭く、切り下げも多く、車いすに乗車体験は乗る人も、押す人も緊張の連続でした。このような狭い歩道での切り下げは急勾配となり、ハンディを持った人達の通行には問題が多いと思われた。

この日の点検作業は、汗を拭き拭き、手にしたペットボトルの水を飲みながらという状況でした。当然のこととして、作業終了後はジョッキーを傾けて、ボランティアの親睦を高めた次第でした。

四建の道路施設点検　　四建班　宮崎　藤夫

本年５月17日～28日に行われた四建管内の施設点検のうち５月24日の目白通り～大泉通りの一部（2.1km）の施設点検に参加させていただきました。点検の感想ですが、日頃の施設管理が行き届いていたため重大な欠陥はなく、数ヶ所のガードレールのボルトの欠落・ゆるみや不法看板。広告の電柱への貼り付け、ペットボトル・空き缶等の廃棄などがみられました。また、雨水配水管の破損と思われる歩道の一部の陥没個所がみつかり、歩行者・自転車等の転倒・怪我につながるため早急に補修が必要。これは、植栽に隠れて発見しにくくこのような機会にこそみつけられるものではないでしょうか。

このような道路管理者によるきめ細かな施設点検が沿道住民や道路利用者の目にとまることが、道路管理者への理解と道路利用の適正化へつながっていくものと思われました。これからもこのような機会に積極的に参加させていただきたいと感じた次第です。

第一回道路施設とバリアフリーの点検

五建班　　吉田　稔

五建の点検は６月28日から７月９日の予定でスタートしました。五建との打ち合わせ期間がみじかいこともありボランティア全員との連絡がとれず６名の参加となり、例年にない猛暑のなか実施されました。

私は７月９日補修課の伊藤補佐・中林さんと平和橋通りを予定でしたところが、前日に伊藤補佐から電話があり中林さんが連日の点検で熱中症となり日程変更の連絡があり７月２２日の実施となりました。

当日猛暑のなか平和橋通りを新小岩南口広場から平和橋まで往復歩きました。日頃の管理が良く大きな問題もなく、段差解消などは現場の苦労のあとが見られた。ただ一つ店舗のガードパイプが取り外されて店舗のわきに置かれているのを発見したのが大きな成果でした。

六建の道路施設点検　　六建班　小柴　昌幸

７月６日（火）OB 組（海藤、平峯、小柴）は十条駅に 10 時に参集、都道 455 号（本郷・赤羽線）のうち環７姥が橋～善徳寺間、約 1.5km の歩道を主体に点検。

朝から暑さの厳しい日であったが、姥が橋の交差点から北に向かい点検を進めた。この路線は工業技術センター、赤羽商高、西が丘競技場などの公共施設が多く平坦な道路であり点検作業もすスムーズに行うことができた。

点検結果では、歩車道分離柵の一部破損（車の当逃げ）マンホールの段差、切り下げエプロンの破損、バス停の壊れた椅子、一部雑草、放置自転車などが上げられる。

これら写真，調書、位置図など整理し７月２３日午後、所長、管理課長、補修課長出席のもとに調査結果の報告会が開かれた。編成された班は 15 班、OB の代表発表は平峯氏が行った。終了は５時を回っていたが、どの班も調査した結果を熱心に説明する姿に感心させられた。忘れかけていた役所時代の雰囲気を肌で感じることができた。また、我々の調査結果が少しでも役に立てばと思う。

七建の道路施設点検　　七建班　　倭文　佐一

七建管内の点検は、７月１日、２日、６日の３日間で駒沢通り、目黒通りの２路線について、七建職員の指導により、協会から７名参加でボランティア協力を行った。

利用者の視点に立って歩道等の安全性、快適性を重視しながら点検作業を行ったが、その中でも東急東横線の都立大駅付近の商店街はどこでも見られるように、放置物件が多く歩行者の安全性が危惧された。

２路線とも、街路樹の生育が著しく、植樹枡の縁石が破損されるなど、若干美しさに欠ける点が見受けられた。

また、各種の道路標識の設置位置が利用者の視点に立ってはいるが、もう少し美しい設置方法がないかなど、バリアフリー化も含め、工夫が必要かと思われた。

今回の道路施設等点検が、行政にどのように反映され、改善されていくのか見守ることは、当ボランティア協会の役割なのであろうか、点検作業に参加して一抹の疑問を感じたしだいである。

南西建第一回道路点検　南西建班　堀内　康彦

７月７日、七夕の暑い日の 10 時に JR 高尾駅集合、一般都道多摩御陵線のバリアフリー点検(目線のみ)を当協会員７名（永田、石島、滝下、笹村，井田、矢野、堀内）で実施した。本路線の終点には、大正天皇，昭和天皇、皇后の墓地があり、皇族の方々が時々お見えになり、大勢の人々が集まる路線(箇所)である。

点検内容は、歩道や横断歩道部での舗装の落ち込みや陥没、通行の支障となる標識／街灯・街路樹・防護柵等の点検を実施した。点検結果を「異常・破損等箇所調書(写真添付)」に纏め、７月 15 日補修課へ提出した。

建設ボランティア協会の皆様、暑い一日お疲れ様でした。

道路施設とバリアフリーの点検

西建班　　佐藤　肇

７月９日（金）、西建管内の歩道部中心の施設点検に当協会より４名（小山（幸）、池野、岸、佐藤）が参加。

当日は３５℃を越す猛暑ではあったが、汗を拭き拭き１班６～７名体制で午前２回午後２回の計４回実施。

点検区間は、青梅街道（主５号線）の東青梅三丁目交差点から野上交差点までの１，３キロで歩道や横断歩道部での車椅子による歩行性等を交替で試乗体験し、バリアフリーの観点から点検を行った。青梅街道は幹線道路であるため、比較的整備されており、一部の交差点ではバリアフリー適合の交差点改良もなされていた。

都の歩道整備事業が進んでいる中、基準が満たされていても車椅子での通行では、段差、切り込み部でのすりつけがきつい、車道側への勾配がきつくハンドルがとられる、低い目線においての障害物（店先の看板等）の多さ等、これらへの改良検討が必要と感じた一日であった。

道路施設一斉点検　　北南建班　谷貝　忠昭

７月１２日朝、北南補修課に集合し、当協会３名（来原、天野、谷貝）職員３名計６名で、鎌倉街道京王線中河原駅付近の両側 250m 計 500m を分担して車椅子で障害箇所を点検しました。手動式車椅子を取り扱うのは初めての経験なので、なかなか真っ直ぐに走行することが難しく、貴重な体験をした。以下は、点検の感想である。

歩道は、点字ブッロクが走行する場所と重複していることが多く、円滑に運転することが難しかった。広い歩道などは点字ブロックとセパレートするとか一工夫必要か？支道巻き込み部はブロックとの段差２cm 以上ついてる箇所もあり、すり合わせ勾配との関係もあるが走行するのに厳しく、歩道に乗り上がるのに苦労した。横断歩道部は円滑であったが、排水部に工夫が必要か。

今回の体験は、都道の一部分だけで、しかも復員も広く、比較的整備された路線だったので、特に問題となる箇所はなかったが、細部については改善の余地もあり、今後「人に優しい道づくり」の貴重な資料が収集できた。

南東建の道路施設点検　　南東建班　佐藤　俊

南東建の点検日は７月１日～７日、当協会員の参加人数は２人×５班計１０人、ボランティアが担当した点検路線は４路線、６区間　延長 8.42km であった。

点検結果は、①舗装の段差陥没等・・51 件　②防護柵の変形破損・・40 件　③街路樹・雑草関係・・15 件　④排水施設の破損等・・14 件　⑤その他 30 件　計 150 件

今回の施設点検に参加した感想を述べると、建設防災ボランティア活動は、震災や洪水時の大災害に備えて、道路や橋の決壊・沿道地域の崩壊による道路閉鎖・堤防の決壊等の長れがある箇所を事前に点検認識しておくべきであり、この安全点検への参加には疑問が残った。

第一回道路施設点検　北北建班　小川　祐司

ボランティア協会の連絡を受け、担当事務所と調整した結果、平成１６年7月２日(金)実施と決まった。事後通知にもかかわらず当所全会員９名のうち７名の参加が得られた。

当日は、梅雨時とも思えない晴間が広がり一段と暑さが応える午後であった。担当路線は、立川通りの芋窪街道北 300m 先から五日市街道までの約 2Km 区間の歩道点検であった。参加者が多かったので２班に分け、夫々片側の点検を担当し出発した。

担当区の３分の１は、前年度、道路補修を終えたばかりの区間で、ほとんど指摘箇所が無かった。残りの３分の２の指摘箇所は両側で２０程度あり、主な内容は、アスファルト舗装の破損、ブロック舗装の段差、看板等の不要物、雑草などであった。これらはほとんど緊急を要する物ではなく、引き続き道路補修が延伸されれば安全で快適な歩行空間が確保されよう。

完了時点で喉を潤し、ほっとしたひと時を味わった。

それにしても、担当事務所の補修課長並びに工務係長の暖かい応対が有難く、また、事務所に帰ると、所長からの労いのお言葉を頂き、気配りの行き届いた事務所である感を一層感じさせた。

残念だったのは、完了時間が早く、夫々予定もあったりして反省会が整わなかったことである。次回からは、時間的な調整も考え参加の有無に反省会を加味したい。

新潟豪雨における砂防ボランティア活動

『砂防メディア』９月号に新潟県砂防ボランティアの活動が報告されましたので、以下に掲載します。

新潟県砂防課から協力要請

平成１６年7月１３日未明からの集中豪雨は新潟県中越地方に甚大な被害をもたらし、各地で、地すべり、崖崩れなど３００箇所を越える土砂災害が発生した。新潟県砂防課は、迅速かつ的確な土砂災害発生状況及び二次災害の危険性の把握のため「ＮＰＯ法人新潟県砂防ボランティア協会（設立平成８年１１月２９日、理事長小林一三会員１７２名)」(以下「当協会」という。）に対して土砂災害調査の協力要請を行った。

これを受け当協会は、7月１５日より寺泊町で自主活動していた当協会員なども含め、直ちに１２班（参加４２名）の災害調査メンバーを組織し、降雨量の多かった１５市町村を対象に活動を開始した。調査は三連休を返上し7月２３日には調査結果をまとめ、県には7月２８日に報告書を提出する精力的な活動を行った。

砂防ボランティアの経験と専門知識が活かされる

当協会の調査は、単に調査活動だけではなく、砂防に関する経験と専門知識を十二分に発揮し、市町村関係者や地域住民に大変感謝された。調査に伴う活動内容を列記すれば以下の通りである。

① 災害調査中に町からの要請で、避難勧告中の住民の集まりにおいて「がけ崩れ災害の被害の範囲」や「警戒避難時の注意事項」等について説明を行った。

② 調査した写真・ネガ・資料などを、地元役場に提供した。

③ 町村職員が同行した調査では、現地で災害申請の相談を受けアドバイスした。

④ 山地部の村の調査班は、道路状況を考慮しオフロード車をレンタルし万全な装備で奥地の集落を廻り、住民からも災害状況等のヒアリングを行い、災害の特徴について把握した。

土砂災害調査を振り返って

今回の土砂災害調査を通じて、小林理事長は「災害調査内容ついて充分な打合せもなくスタートしたが、ボランティア会員の経験と災害に立ち向かうフアイトで、全員無事故で、現場調査を短時間に終了できた事は、今後の当協会の活動の礎となった。」と語り、また、今回の災害について「一般に神社・仏閣の建っている場所は、災害に強いところと言われ避難場所に指定されていることが多いが、今回は土砂災害の被害を受けているのが目立った。それだけ異常な豪雨だったのではないか」と感想を述べた。

また、栄町を調査した筆者は、本災害の特徴について次のようにとらえた。

① 局地的で集中豪雨も数時間のため、山地斜面、人家裏斜面、道路斜面などの小規模な表土（１～３m）の崩落が多く、川などに流れ込んだ土砂も粒径が小さいため、上流の決壊氾濫区域まで運ばれ、浸水家屋の土砂堆積被害が大きくなった。

② 人家の被害は、崩落土砂による損壊の他、倒木（杉）による被害が目立った。また、人家裏の斜面崩壊も、ほとんどが民有林で保全対象も１～２戸程度が多かった。

② 急傾斜地崩壊防止施設のあるところは、ほとんどがその施設で防いでおり、効果が大であった。ただし、今後待ち受け擁壁の背後の土砂取り除きが、新たな課題になる。

筆者　ＮＰＯ法人新潟県砂防ボランティア協会
事務局長　松　郷　文　人

―書き手が異なる―

銘板の文字について

小森和雄

平成16年4月24日、島嶼としては、日本一の「平成新島トンネル」（2,878m）が開通しました。従来、銘板（橋梁・トンネル）の文字は、偉い人が書く、これが、一般的だったように思いますが、このトンネルの文字は、島の小学生達がデザインしました。

本村側は普通の文字ですが、若郷側は、文字の点の部分が星印として描かれています。私は図らずも施工業者側の一員として開通式に出させて頂きました。「星の美しい島嶼らしいデザイン」と、何度も、銘板の文字を見ると同時に、現職時代のことを思い出していました。

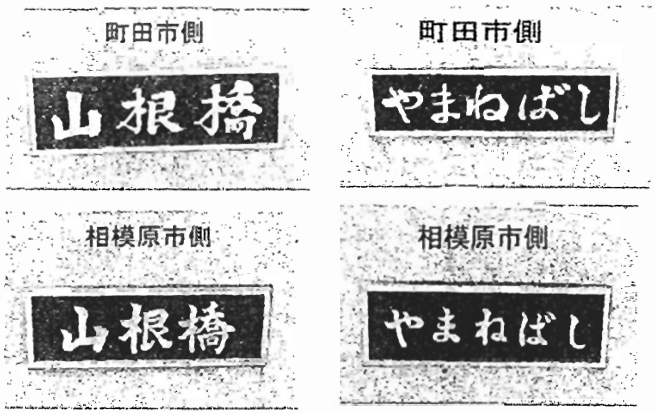
平成12年の秋、私は南東建の所長でした。

東京都町田市と神奈川県相模原市の都県境を流れている「境川」に橋を架けました。工事課の職員が気を使って橋名板の文字（山根橋）を書いてくれと、半紙を持って頼みにきました。私は「町田側は町田市長に、相模原側は相模原市長に頼むよう」指示しました。

それは、町田市と相模原市とは、地理的にも、歴史的にも縁が深く、両市は都県を超えて大都市になろうという動きがあると聞いていたこと。また、南東建と相模原市、また町田市と、それぞれに、境川の管理用通路における放置自転車対策についての協定を締結したばかりという時だったこと。平成12年は、世紀が変わると共に、千年紀として騒がれていたこと等から、「両市を結ぶ橋であり、将来一つになるかもしれない両市の市長さんが書くのが、最も望ましい。」考えたからでした。

翌年の春「ひよどり山トンネル（有料道路）」（八王子市）の開通式に出席しましたところ、トンネルの銘板は、地元中学の生徒さんが書いたことを知りました。　そこで、帰庁後すぐに工事課の職員を呼んで「山根橋の文字だが、市長さんには漢字を、ひらがなは、小学生に書いてもらうように変更したい」旨を話したところ「既に書き終わって、頂いてきています」とのことなので、小学生に書いてもらうのはあきらめました。しかし、「百年後の22世紀になったとき、両市が一つになったとき、将来、橋を架け替えたとき、小学生の子は、生存している可能性があるわけで、今は、無理しても未来を担う小学生に書いてもらっておけばよかったと思っています。

このようなことから、銘板の文字を誰が書いているのかに関心を持つようになりました。最近は、新島のトンネルの銘板のように地元の児童・生徒にお願いすることが増えているようです。新島に続いて開通（4月29日）した「戸吹トンネル」の文字も、地元の生徒さんに書いてもらったということです。



過去の銘板について、何人かにお聞きしたところでは「日本橋」の銘板は、最後の将軍「徳川慶喜」筆とのこと。また、呑川に架かる「霊山橋」は池上本門寺の参道にあたることから、門主にお願いしたとか。

その時々で、誰に書いてもらうか工夫しているように思いますが、右岸側・左岸側で、橋銘板の書き手が異なるのは、珍しいのではないかと思っています。私は実例を集めています。先輩諸氏のお話しを伺えれば幸せです。

会　員　情　報

◎ 沼尻会長が９月１付で勤務先がかわりました。
　新勤務先　　(株)ピーエス三菱
　勤務先電話　０３－４５６２－３１０７
　勤務先 FAX　０３－４５６２－３１２５

◎ 新会員の紹介　：　伊藤浩之氏
　〒359-1143　　所沢市宮本町２－２３－１７
　配属先：西建(砂防ボランティア兼任)

編　集　後　記

★ 今年の猛暑は格別でいまだに真夏日の新記録を更新中ですが、いったいどうなっているんでしょうか？そんな中での当協会員は、道路施設点検などに活躍。ご苦労さまでした。

★ 頂いたご報告文のうち、字数の関係でやむをえず、独断でお断りもせず編集させていただきました。どうかご了承下さい。

★ 次号は「防災の日」特集で編集いたします。

★ 皆様の原稿をお待ちいたしております。

発行人　沼尻　孰
編集人　城之内一成　輿水　昭秀
発　行　東京都建設防災ボランティア協会
事務局　(財) 東京都道路整備保全公社 (tel:03-5381-3380)
　　播谷　知之　金田　宗明
　　(財) 東京都公園協会　(tel:042-548-9161)
　　荒木　清